



2019年度 中間連結決算

前年同期比 増収増益

関西エアポート株式会社は、2019年4月から2019年9月までの第5期会計年度中間連結決算において、営業収益は1,198億円、営業利益は362億円、経常利益は308億円、中間純利益*は255億円を計上しました。

今中間期は韓国、香港路線の需要の落ち込みがありましたが、昨年の台風21号からの反動増に加え、中国をはじめとする他の路線が好調に推移した結果、前年同期と比較すると、営業収益は14%の増加、営業利益は36%の増加となりました。また、昨年の台風被害にかかる受取保険金を特別損益に計上していることから、中間純利益では122%の大幅な増益となりました。

なお、前年同期の営業収益、営業利益には、台風によってそれぞれ82億円、64億円のマイナスの影響がありましたが、これを除いても、増収増益となっています。

(連結損益計算書)

(単位：億円)

	2018.4-2018.9	2019.4-2019.9	増減	%
営業収益	1,049	1,198	149	+14%
外部費用	(586)	(635)	(49)	+8%
EBITDA	464	563	100	+22%
減価償却費	(197)	(202)	(4)	+2%
営業利益	266	362	96	+36%
経常利益	209	308	99	+47%
中間純利益*	114	255	140	+122%

* 「中間純利益」は、「当社株主に帰属する中間純利益」を記載しています。

(航空需要の状況)

関西国際空港では、韓国方面で減便があったものの、新規就航・増便の多かった中国、東南アジア方面の国際線旅客便の増加により、2019年度上期の航空機発着回数は、年度上期として過去最高の結果となりました。大阪国際空港におきましては前年より微増、神戸空港も規制緩和による影響もあり増加した結果、3空港の総発着回数は19.1万回となりました。

航空旅客数は、関西国際空港では、国際線外国人旅客数が8年連続過去最高を記録し、また国際線日本人旅客数も4年連続で前年超となった結果、旅客数が年度上期として過去最高となる1,634万人を記録しました。大阪国際空港におきましても、4年連続前年超となり、また神戸空港におきましても規制緩和による影響もあり前年比6%の増加となったことから、3空港の総旅客数は、年度上期として過去最高となる2,644万人となりました。

	2018.4-2018.9	2019.4-2019.9	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	17.4	19.1	1.7	+10%
関西国際空港	9.0	10.6	1.6	+18%
大阪国際空港	6.9	7.0	0.1	+1%
神戸空港	1.5	1.6	0.1	+6%
航空旅客数（万人）	2,372	2,644	272	+11%
関西国際空港	1,391	1,634	243	+17%
大阪国際空港	819	839	20	+2%
神戸空港	161	170	9	+6%

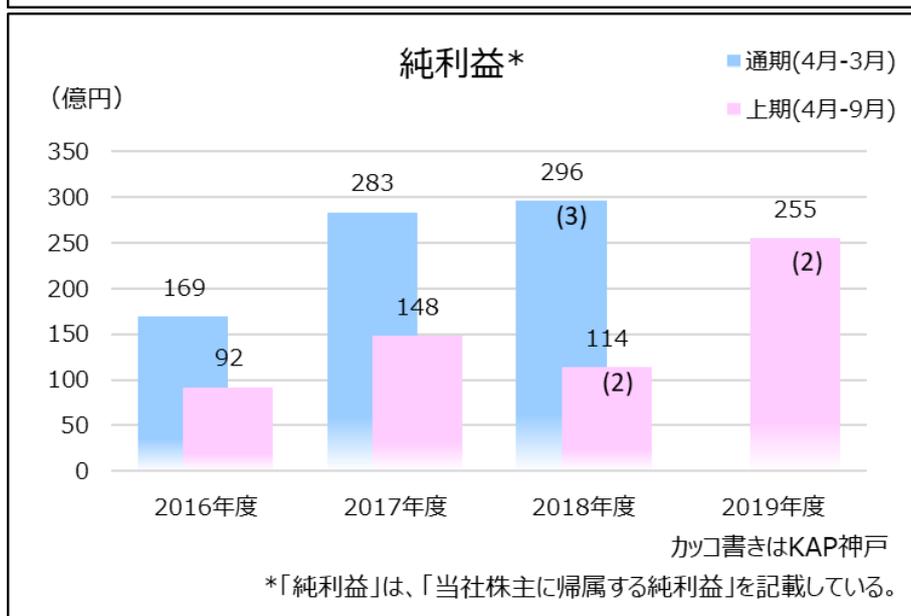
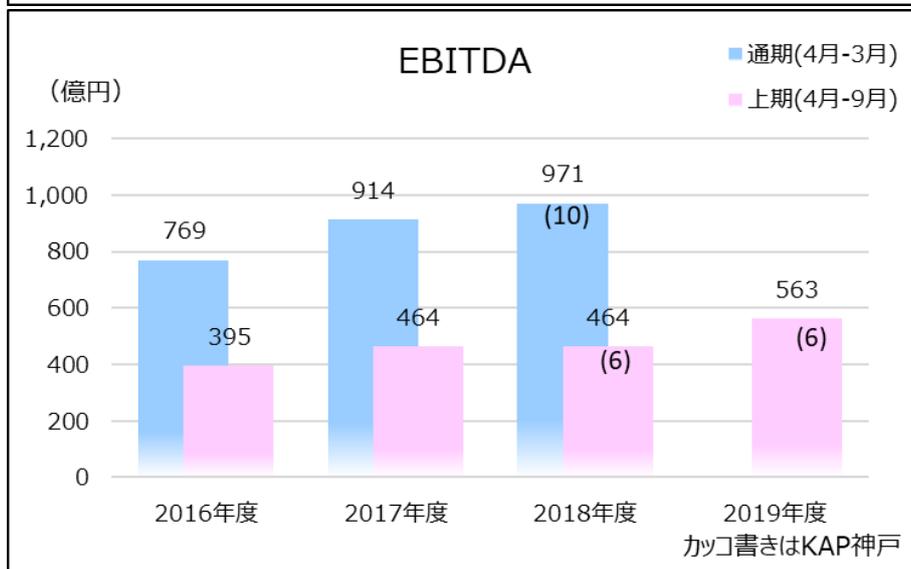
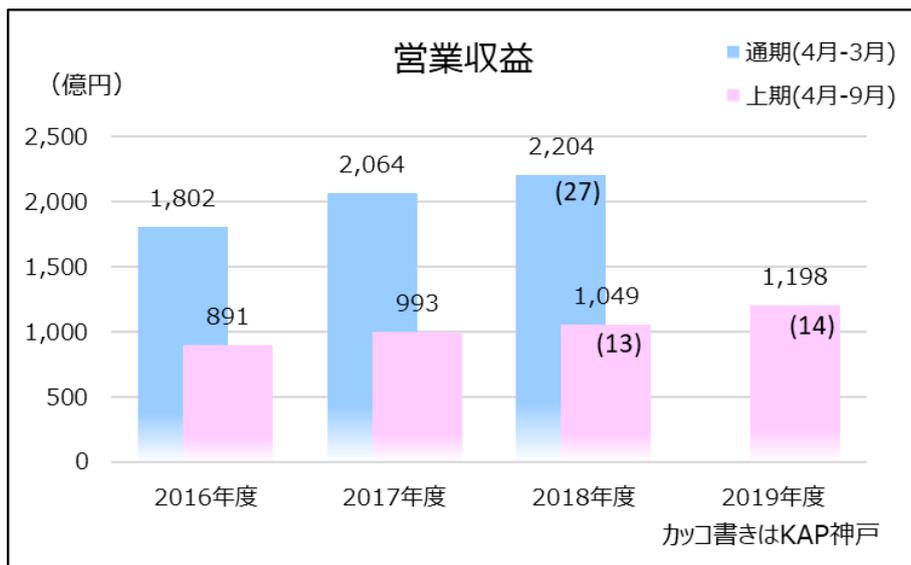
(連結貸借対照表)

2019年9月30日現在における財政状態は、前期末と比べると、公共施設等運営権に係る負債の支払いと、公共施設等運営権の償却が進んだ結果、資産・負債ともに減少となり、資産合計は1兆7,312億円、負債合計は1兆6,300億円となりました。

(単位：億円)

	2019.3.31 現在	2019.9.30 現在	増減
流動資産	1,764	1,699	(65)
固定資産	15,809	15,614	(195)
資産合計	17,573	17,312	(260)
流動負債	815	692	(123)
固定負債	15,818	15,608	(210)
負債合計	16,633	16,300	(333)
株主資本	932	1,006	75
その他の包括利益累計額	(5)	(8)	(3)
非支配株主持分	13	15	2
純資産合計	940	1,013	73
負債・純資産合計	17,573	17,312	(260)

(参考資料) 連結決算の推移



【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社 企画・管理部 コーポレート・コミュニケーションズ
Tel : 072-455-2201

25 80 13
KIX ITAMI KOBE

KANSAI AIRPORTS

連 結 損 益 計 算 書

〔 自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 1 年 9 月 30 日 〕

(単位：百万円)

営 業 収 益		119,806
営 業 原 価		71,726
営 業 総 利 益		48,079
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		11,915
営 業 利 益		36,164
営 業 外 収 益		723
受 取 利 息 及 び 配 当 金	355	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	83	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	284	
営 業 外 費 用		6,124
支 払 利 息	6,064	
支 払 手 数 料	50	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	9	
経 常 利 益		30,763
特 別 利 益		9,182
固 定 資 産 売 却 益	0	
補 助 金 収 入	339	
災 害 に 伴 う 受 取 保 険 金	8,842	
特 別 損 失		3,006
固 定 資 産 除 却 損	58	
固 定 資 産 売 却 損	0	
固 定 資 産 圧 縮 損	330	
更 新 投 資 に 伴 う 撤 去 費 用	372	
災 害 に よ る 損 失	678	
災 害 損 失 引 当 金 繰 入 額	1,386	
支 店 閉 鎖 損 失	179	
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益		36,939
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	10,882	
法 人 税 等 調 整 額	437	
中 間 純 利 益		25,618
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益		168
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益		25,450

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結貸借対照表

[令和1年9月30日現在]

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	169,884	流 動 負 債	69,208
現金及び預金	123,636	買掛金	4,114
受取手形及び売掛金	10,871	未払金	7,786
商 品	6,003	未払費用	3,976
原材料及び貯蔵品	1,195	1年内返済予定の長期借入金	3,267
1年内回収予定の差入保証金	13,304	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	29,687
未 収 金	10,518	未払法人税等	10,537
そ の 他	4,354	賞与引当金	1,147
		ポイント引当金	92
		災害損失引当金	1,741
		そ の 他	6,857
固 定 資 産	1,561,363	固 定 負 債	1,560,773
有 形 固 定 資 産	27,122	社 債	4,860
建物及び構築物	3,927	長期借入金	166,619
機械装置及び運搬具	10,008	公共施設等運営権に係る負債	1,327,242
土 地	603	特別修繕引当金	47,530
建設仮勘定	6,346	災害損失引当金	448
そ の 他	6,236	退職給付に係る負債	4,437
無 形 固 定 資 産	1,423,569	そ の 他	9,636
公共施設等運営権	1,400,147		
更新投資に係る資産	22,153	負 債 合 計	1,629,982
そ の 他	1,268	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	110,671	株 主 資 本	100,620
投資有価証券	1,418	資 本 金	25,000
退職給付に係る資産	219	資 本 剰 余 金	25,000
差入保証金	101,740	利 益 剰 余 金	50,620
繰延税金資産	7,141	その他の包括利益累計額	△ 806
そ の 他	159	その他有価証券評価差額金	28
貸倒引当金	△ 8	繰延ヘッジ損益	△ 835
		非支配株主持分	1,451
		純 資 産 合 計	101,265
資 産 合 計	1,731,247	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,731,247

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス40%、 ヴァンシ・エアポート40%、 その他の出資者20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界37カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、46空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するフランス、ポルトガル、イギリス、スウェーデン、セルビア、カンボジア、日本、アメリカ合衆国、ドミニカ共和国、コスタリカ、チリ、そしてブラジルの空港には、合計で約250社の航空会社が就航し、2018年の旅客者数は2億4,000万人にのびます。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

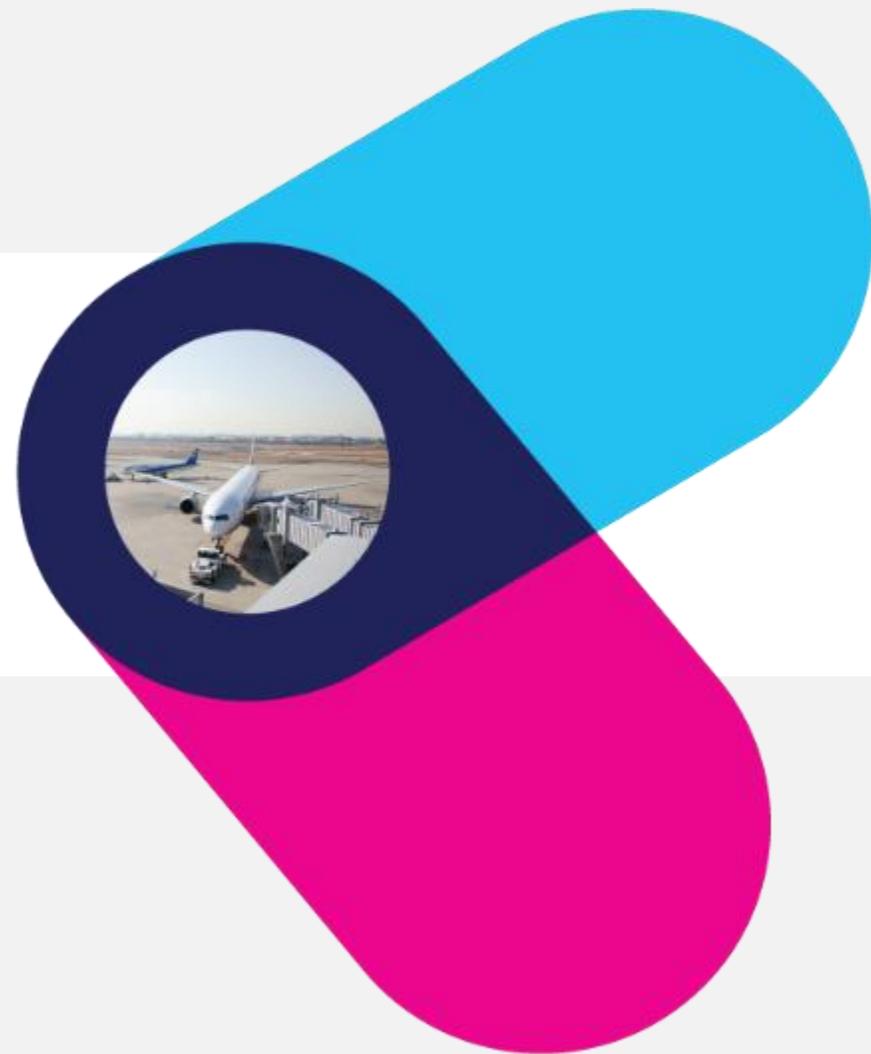
2018年の連結売上高は16億ユーロ、グループ全体の売上高は36億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2019年度 中間連結決算

2019.12.10



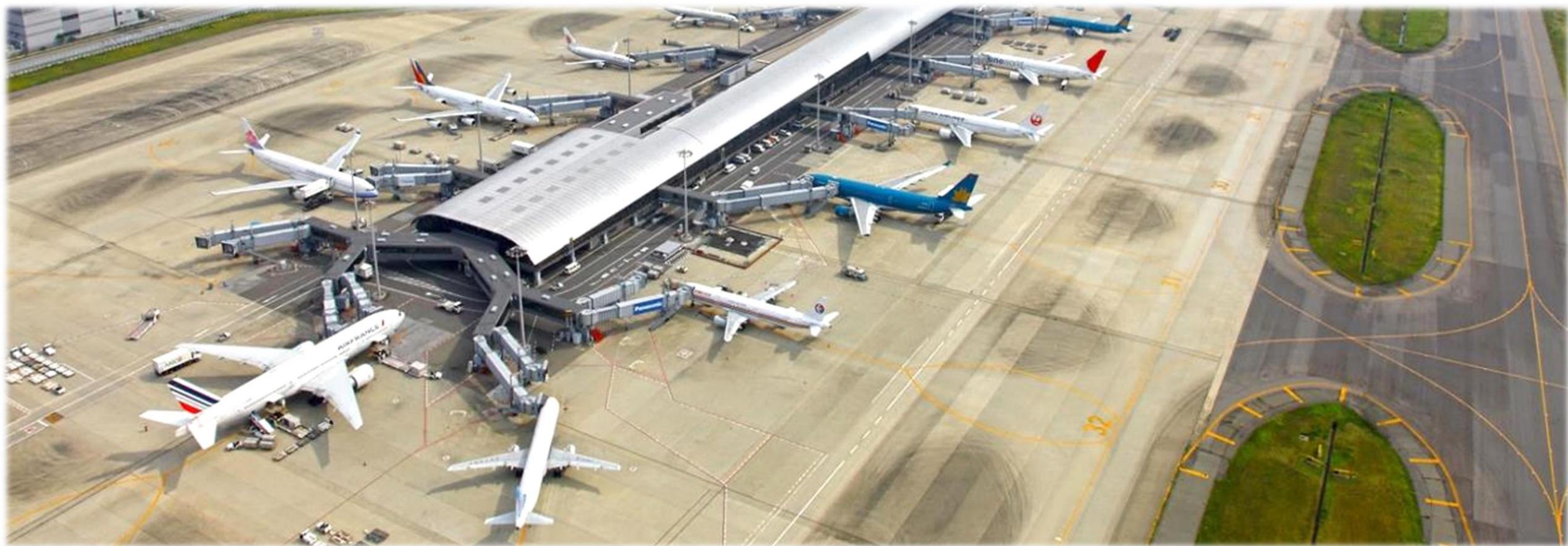
Shaping a New Journey



アジェンダ

-  2019年度 中間連結決算の概要
-  営業収益分析





2019年度 中間連結決算の概要

前年同期比 増収増益

【単位：億円】

1. 韓国方面を除いたすべての方面で
国際航空需要が増加

2. 神戸空港の規制緩和の影響もあり、
国内航空需要が拡大

3. 2018年台風21号による影響

⇒ 昨年の台風の影響（営業利益△64億円）
からの反動増を除いても、増収増益
⇒ 保険金受取により中間純利益は大幅増

	2018.4-2018.9	2019.4-2019.9	増減	%
営業収益	1,049	1,198	149	+14%
EBITDA	464	563	100	+22%
営業利益	266	362	96	+36%
経常利益	209	308	99	+47%
中間純利益*	114	255	140	+122%

*「中間純利益」は、「当社株主に帰属する中間純利益」を記載

経営成績

【単位：億円】

	2018.4-2018.9	2019.4-2019.9	差額	%	うち台風影響額
営業収益	1,049	1,198	149	+14%	+82億円
航空系	428	493	65	+15%	+36億円
非航空系	621	705	84	+14%	+46億円
営業費用（減価償却費除く）	(586)	(635)	(49)	+8%	△19億円
EBITDA	464	563	100	+22%	+64億円
減価償却費	(197)	(202)	(4)	+2%	
営業利益	266	362	96	+36%	+64億円
営業外損益	(57)	(54)	3	-6%	
経常利益	209	308	99	+47%	+64億円
特別損益	(43)	62	104	-245%	+103億円
法人税等、非支配株主帰属損益	(52)	(115)	(63)	+122%	-51億円
中間純利益*	114	255	140	+122%	+116億円

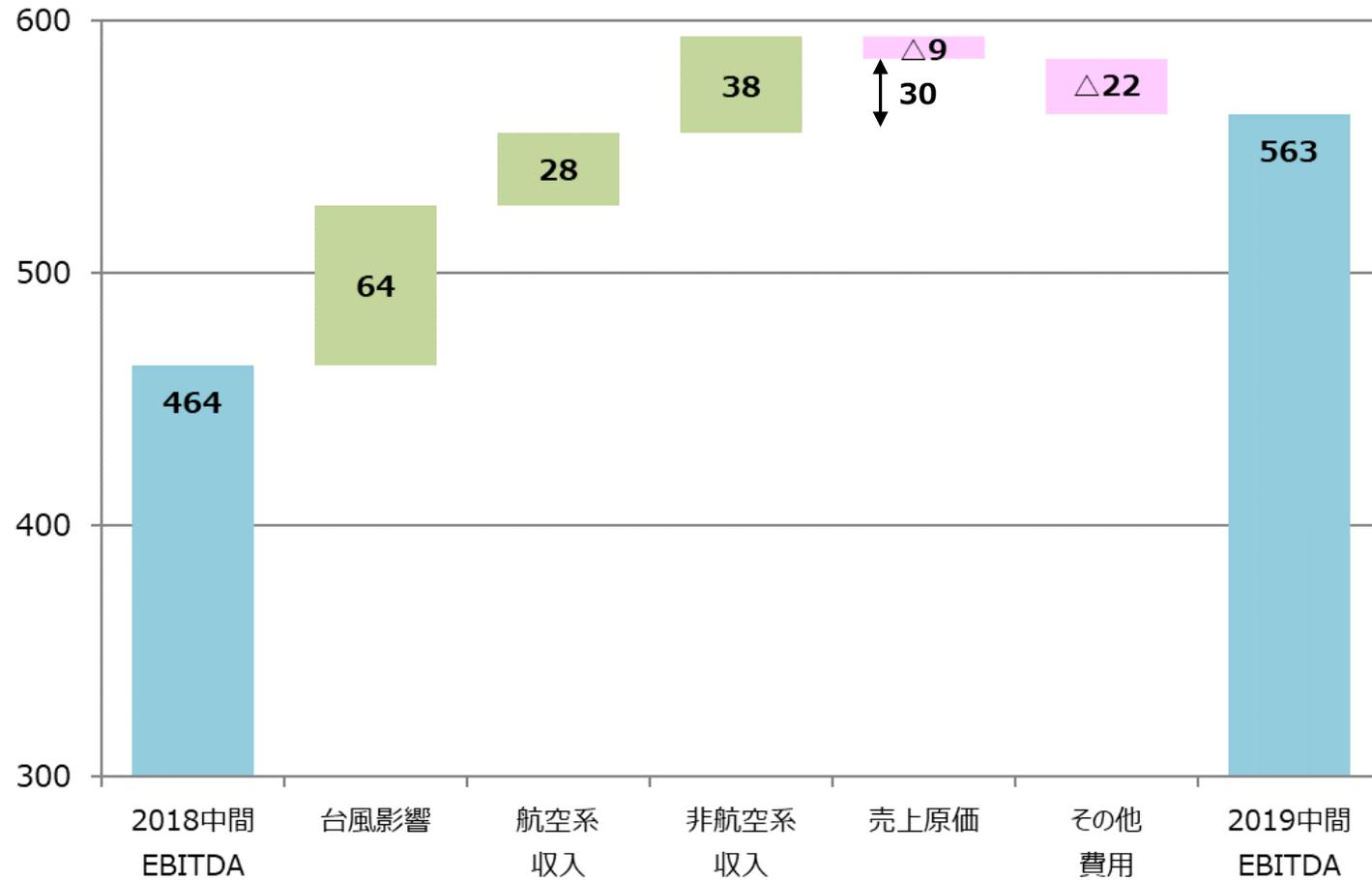
(参考) 2018年台風21号の影響

【単位：億円】

	2018 Apr-Sep	2019 Apr-Sep	2019-2018
営業収益	△ 82	0	82
航空系	△ 36	0	36
非航空系	△ 46	0	46
売上原価	19	0	△ 19
小計 (EBITDA・営業利益)	△ 64	0	64
災害に伴う受取保険金	0	88	88
災害による損失・災害損失引当金繰入・取崩	△ 35	△ 21	15
合計 (税引前)	△ 99	68	167

EBITDA分析

【単位：億円】



バランスシート

【単位：億円】

	2019.3.31現在	2019.9.30現在	増減	
公共施設等 運営権	流動資産	1,764	1,699	(65)
	固定資産	15,809	15,614	(195)
	資産合計	17,573	17,312	(260)
公共施設等 運営権に係る負債	流動負債	815	692	(123)
	固定負債	15,818	15,608	(210)
	負債合計	16,633	16,300	(333)
	株主資本	932	1,006	75
	その他の包括利益累計額	(5)	(8)	(3)
	非支配株主持分	13	15	2
	純資産合計	940	1,013	73
	負債・純資産合計	17,573	17,312	(260)



營業收益分析

【航空系】3空港合計の発着回数・旅客数ともに、年度上期として過去最高

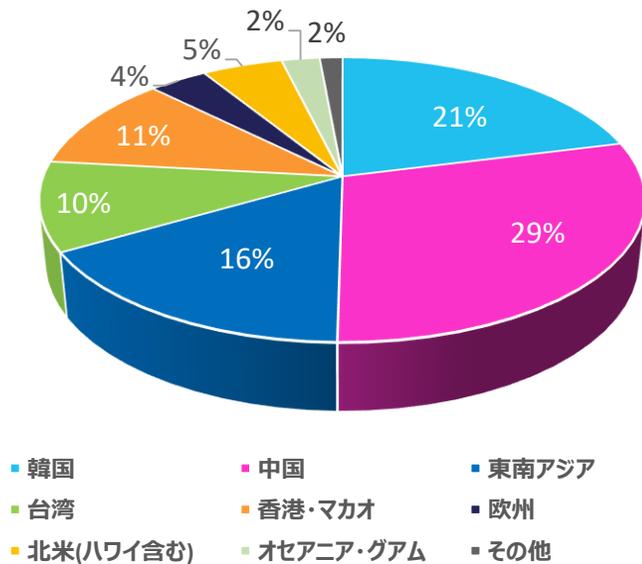
- 昨年の自然災害からの反動増もあり、3空港合計の総発着回数・旅客数がともに、年度上期として**過去最高**
- 関西国際空港：総旅客数が年度上期として**過去最高**。総発着回数は年度上期として初めて**10万回越え**
- 大阪国際空港：旅客数が**前年比2%増**
- 神戸空港：旅客数が年度上期として**過去最高**で、**前年比6%増**

	2018年度 上期	2019年度 上期	増減	%
発着回数（万回）	17.4	19.1	1.7	+10%
関西国際空港	9.0	10.6	1.6	+18%
大阪国際空港	6.9	7.0	0.1	+1%
神戸空港	1.5	1.6	0.1	+6%
航空旅客数（万人）	2,372	2,644	272	+11%
関西国際空港	1,391	1,634	243	+17%
国際線	1,076	1,276	200	+19%
日本人旅客	325	398	73	+22%
外国人旅客	741	867	126	+17%
大阪国際空港	819	839	20	+2%
神戸空港	161	170	9	+6%

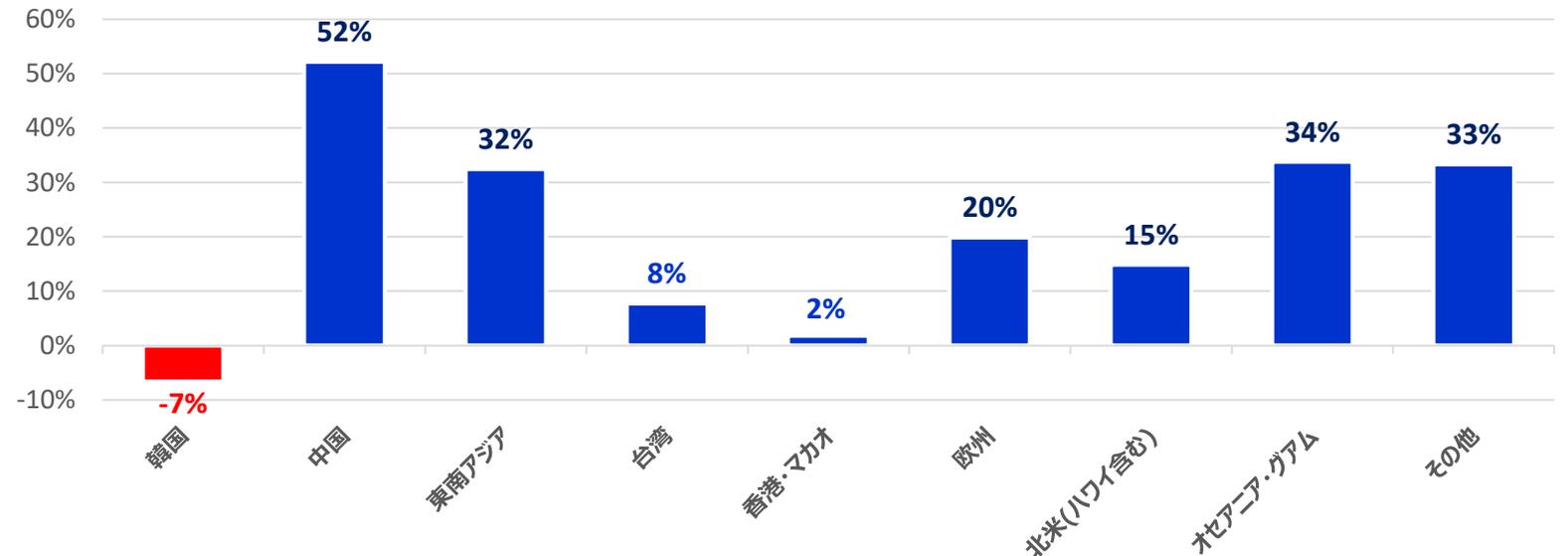
【航空系】KIX国際線旅客数、好調に推移

- ✈ 韓国路線の落ち込みはあるものの、中国・東南アジア方面を中心に、訪日需要が旺盛。
- ✈ 新規就航や増便があった欧州や北米などの長距離路線も押しなべて好調。

2019年度上期 国際旅客数 方面別内訳



2019年度上期 国際線旅客数 方面別伸び率（前年同期比）

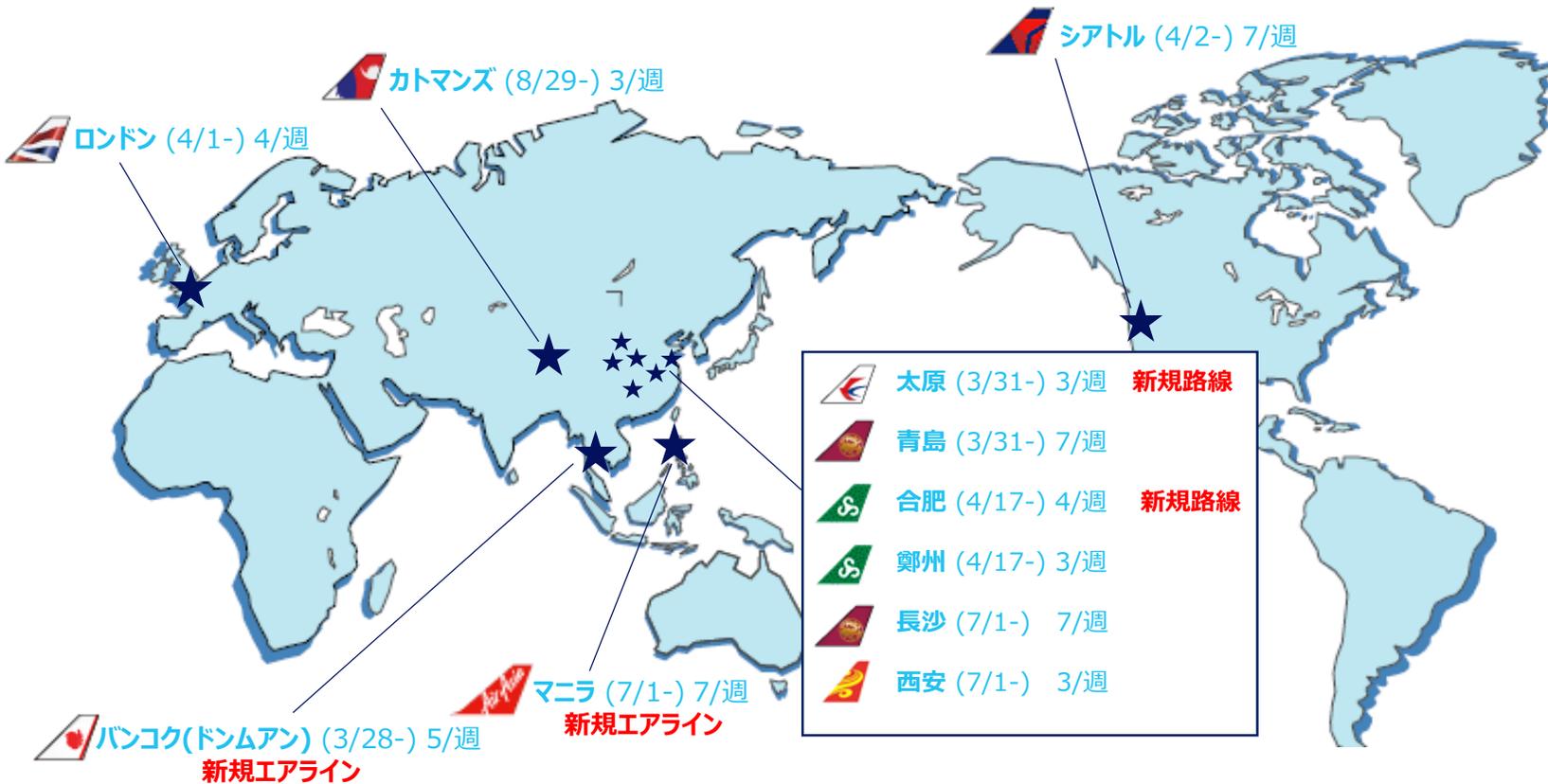


※その他はインド・ネパール・中東・極東アジアを指す

【航空系】2019年度上期 新規就航・増便路線 (旅客便)

国際線 (新規就航路線)

国内線 (新規就航・増便路線)



KOBE-茨城 (8/1-) 2→3/日
 KOBE-長崎 (8/1-) 3→4/日
 KOBE-那覇 (8/1-) 3→4/日



【航空系】長距離便の拡大

長距離国際線の新規就航により、ネットワークは継続的に拡充

📍 2017年 夏・冬 ✈️ 📍 2018年 夏・冬 ✈️ 📍 2019年 夏・冬 ✈️ 📍 2020年 夏・冬 ✈️



AirAsia X
ホノルル 就航



カンタス航空
シドニー 就航



エミレーツ航空
A380 就航



ブリティッシュ・エアウェイズ
ロンドン 就航



デルタ航空
シアトル 就航



スイス インターナショナル エアラインズ
チューリッヒ 就航



カタール航空
ドーハ 就航



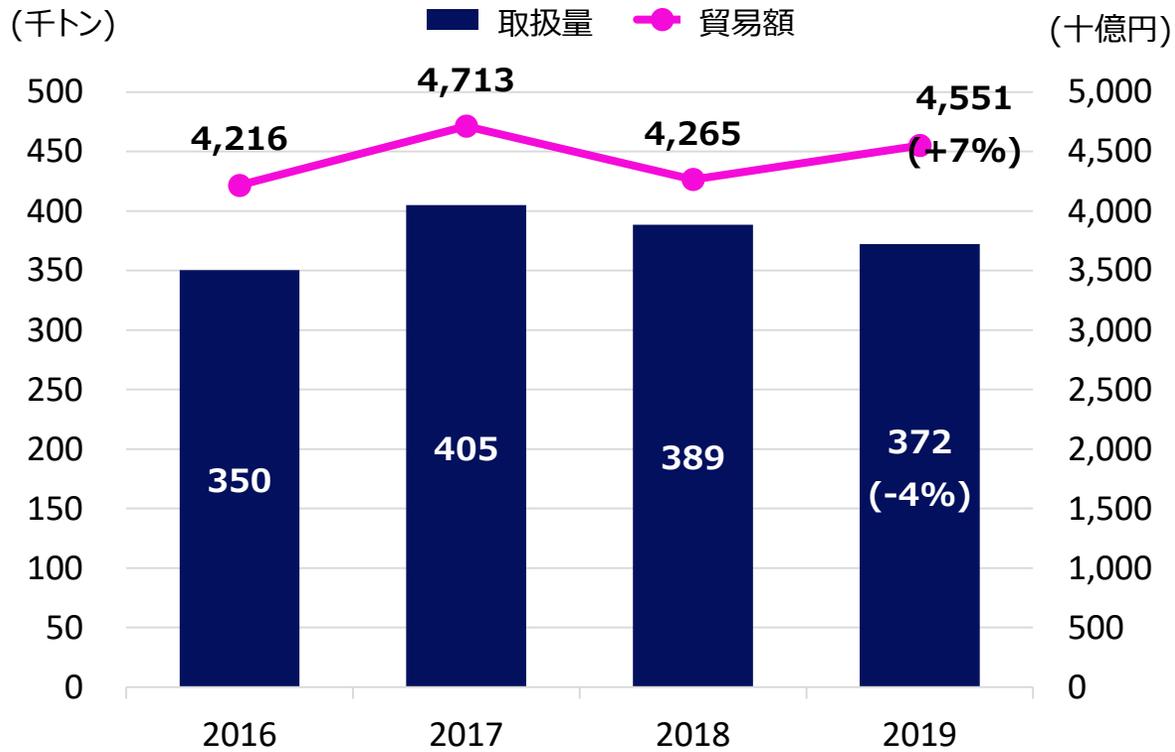
ターキッシュエアラインズ
イスタンブール 就航

【航空系】KIX国際貨物、貿易額は前年プラス、医薬品の取扱は好調

KIXの上期国際貨物取扱量は37万トン、前年比-4%

医薬品貨物の取扱向上に向けた取り組み

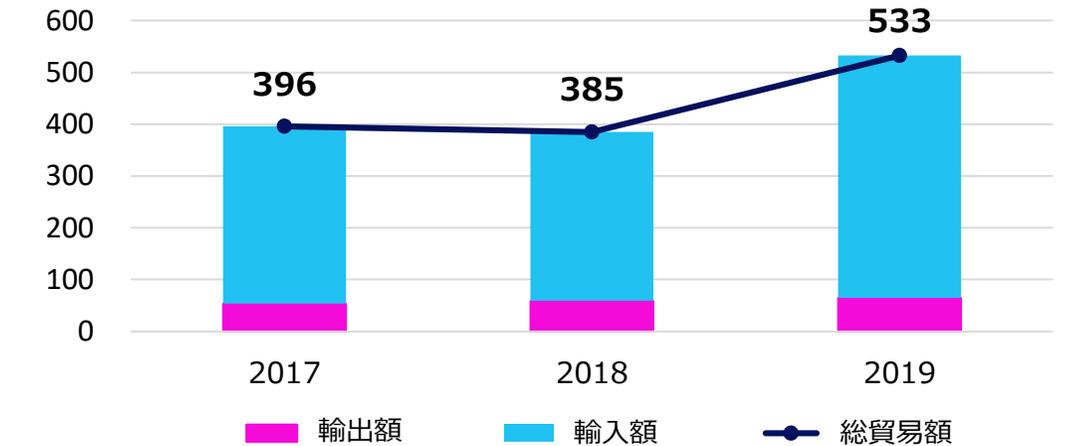
2016-2019年度上期 国際貨物取扱量実績



コミュニティによるCEIV Pharma取得 (2019年6月)



2017-2019年度上期 医薬品貨物取扱金額実績

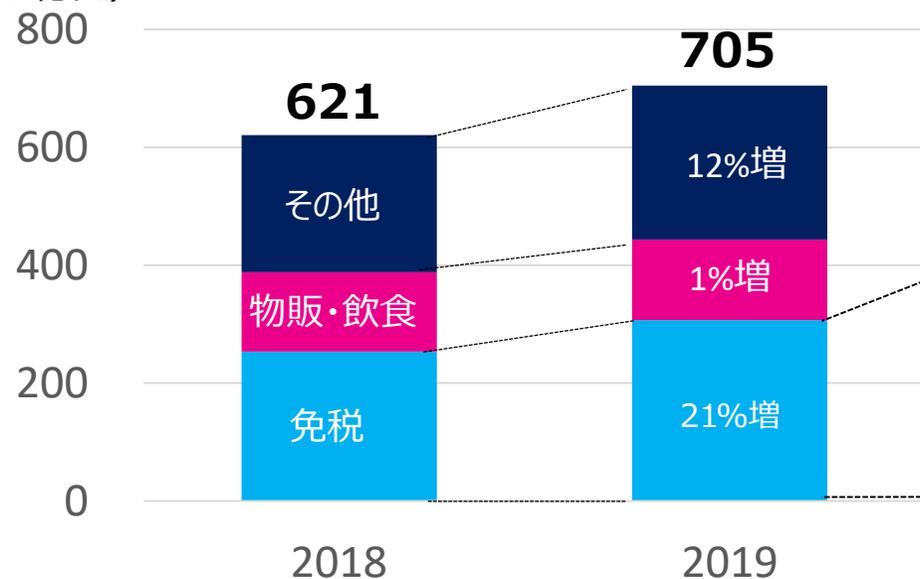


【非航空系】好調な非航空系収入の伸び

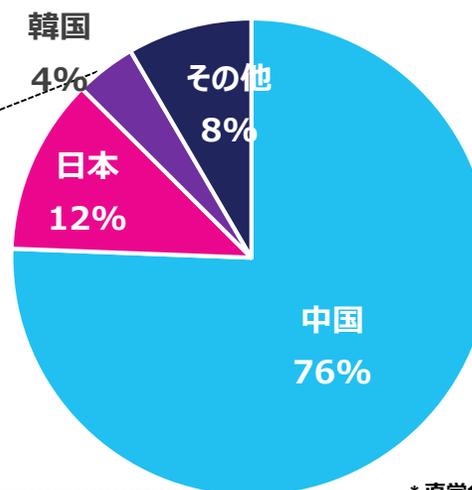
- 非航空系収入は引き続き中国人購買が堅調に推移。過去最高となる705億円を記録
- 前年比21%増加した免税事業収入が商業事業の力強い成長をけん引
- 直営免税店における中国人売上は高い客単価と購買率に支えられシェアが76%にまで拡大

2019年度 非航空系収入の伸び率 (%)

(単位：億円)



2019年度 国籍別免税店売上の割合 (%) *



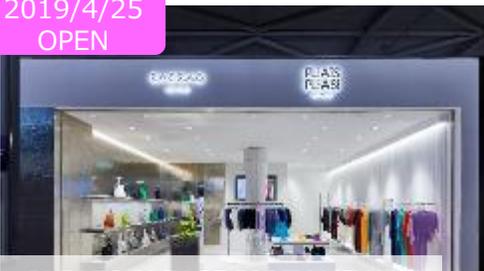
* 直営免税店のみ

【非航空系】ニーズの高い店舗を導入

- 2019年度において関西空港にニーズの高い店舗を導入
- 直営免税店「PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE / BAO BAO ISSEY MIYAKE」、「CLÉ DE PEAU BEAUTÉ」に加え、一般エリアにおいても店舗を拡充
- 2019年12月1日には「TORY BURCH」が新規開業
- 大阪国際空港において4月に立体駐車場立て替え、7月よりレンタカーステーション運用開始

KIX

ITAMI

<p>2019/4/24 OPEN</p>  <p>È PRONTO</p>	<p>2019/4/25 OPEN</p>  <p>PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE BAO BAO ISSEY MIYAKE</p>	<p>2019/5/16 OPEN</p>  <p>CLÉ DE PEAU BEAUTÉ</p>
<p>2019/6/1~ 4店舗 順次OPEN</p>  <p>外貨両替トラベックス</p>	<p>2019/9/26 OPEN</p>  <p>なか卯</p>	<p>2019/12/1 OPEN</p>  <p>TORY BURCH</p>

<p>2019/4/27 OPEN</p>  <p>北立体駐車場（伊丹）</p>
<p>2019/7/8 OPEN</p>  <p>レンタカーステーション（伊丹）</p>

航空系・非航空系収入の割合は前年と同水準

- 非航空系収入の割合：59%と前年と同水準
- 航空系収入：旅客数・発着回数の増加に伴い65億円の増収
- 非航空系収入：免税事業収入を中心に84億円の増収

